

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022 年 4 月 1 日
研究・研修課題名	感染対策に関わる相談対応や核感染状況下での院内感染対策の周知を困難とさせる要因の検討
研究・研修組織名(所属)	感染制御部
研究・研修責任者名(所属)	坂根圭子
研究・研修実施者名(所属)	城 有美

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input checked="" type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果(投稿予定)
該当者名(所属)	感染制御部、医療安全管理部
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

2020 年度、COVID-19 の国内流行に伴い、当院は COVID-19 対策委員会の決定のもと各種通知を出し、職員や患者に協力を依頼し感染対策を取ってきた。状況が刻々と変わるため必要な対策が次々と加わり、専門家の意見を反映した対策を現場で実施するための、統一した理解や職員の周知は困難であった。そのため、感染制御部に多数の問い合わせ・相談があった。この相談対応は感染制御部の限られた人的資源のエフォートの多くを費やす必要があった。本報告では相談事項を集計し、各時期に決定すべきことや適切な情報提供方法を明らかにする。

②方法

COVID-19 関連の相談の 50%以上を城が受けており、2020 年 4 月以降すべての相談日と内容を保存している。城以外の制御部員の記録も確認し、すべての記録分と合わせて集計し、居住地域、県内、国内外での COVID-19 感染に関する事象を合わせて検討した。月ごとに感染症に関する事項と、多かった相談内容をふりかえった。

③成果

2020 年度、相談件数は 620 件だった。時期ごとに内容で分類した相談件数を提示する。国内の感染者数が減少した時期には、職員、患者、患者家族とも県外移動の問い合わせが増加し、面会希望のための相談件数も増加した。長期休暇の間は私的な活動に関する相談が増加した。診療に関する問い合わせは、全国の感染者数より県内の感染者数に影響され、重症症例を受け入れる当院の特徴であると推測されるが、重症症例が増える時期に増加した。症例数が増加する時期には相談件数は増加するが、多く維持されて経過する時期には相談件数が多くはならないようであった。新興感染症では一定の指針が作成されるまでは情報収集が難しいため、感染症以外の専門性診療科に所属する医師が感染症について新しい知見を獲得する方法は検討が必要である。

COVID-19 の国内流行時、PCR を含む検査が十分に行える状況でなかったため、検査について、診療面のみならず自己の感染不安や就業に関連して継続して問い合わせられた。当院の特徴として、院内や行政での決定事項内容を確認するための問い合わせが常に一定数寄せられた。電子メールで全体周知をはじめたが、各人レベルではメールは確認されないことがあると分かり、経過中病院ホームページ

(様式1)

での情報揭示を開始した。情報提供手段は複数利用すると有用だと考えた。今後もどのように情報提供するかは工夫が必要である。

あらかじめ問い合わせが多いことが予測される長期休暇前から長期休暇中や新規入職者が多い時期などは、問い合わせ窓口を複数受けることで感染制御部への問い合わせ件数増加を抑えられることが分かった。

Inquire	Apr-20	May-20	Jun-20	Jul-20	Aug-20	Sep-20	Oct-20	Nov-20	Dec-20	Jan-21	Feb-21	Mar-21
Medical care	38	15	4	21	15	7	7	8	40	15	15	1
Request for exception permission	6	3	17	8	22	10	3	6	24	17	13	12
Infection control (individual)	15	3	1	7	2	3	4	2	13	0	4	2
Infection control (hospital)	22	5	1	2	4	3	2	4	9	5	0	3
Confirmation of in-hospital regulations and decisions made by the government	13	4	6	9	10	2	5	6	13	4	7	4
Moving out of the prefecture	2	6	7	3	12	6	3	5	0	8	4	2
Others	2	4	2	4	3	4	0	2	4	6	3	7
Total	98	40	38	53	68	35	24	33	103	55	46	31

COVID-19 に関して、感染症の特性と地域の特性から、島根県の感染流行の時期は、都市部と異なっていた。日本全体での均一な感染対策では、病院職員、住民の納得は得られなかったと考える。また、各職員からの問い合わせで必要性に気づき、感染制御部が関わり感染対策を講じる場面がいくつもあった。当院では複数の部門で連携して多様な診療が行われていることから、各部門内のみで感染対策を決定出来なかったことが影響している。病院の管理部門としての感染制御部は、地域の特性に合わせた感染対策を提供し、病院内の調整役として機能していた。今回のパンデミックの経験を基に、感染症流行に落ちていて対応するため、情報伝達・周知に関わる病院システムの構築が望まれる。